

ハバロフスク地方における蓄積された環境への被害の除去  
及び新しい廃棄物処理体制への移行について

1 自治体・所属：ハバロフスク地方天然資源省環境保全委員会

2 発表者：A.A.サビトフ 天然資源省環境保全委員会委員長

3 要旨：

- (1) ハバロフスク地方では、生産及び消費によって発生する廃棄物の量が年々増加している。この問題はハバロフスク地方政府の環境政策の方針決定に影響しており、また、多くの公的機関において、廃棄物処理施設の開発が注目されている。
- (2) ハバロフスク地方では、古紙、有機化合物（重合体）・建築廃棄物、ガラス、中古タイヤのリサイクル企業が発展している。2018年には、ハバロフスク地方政府の助成金により使用済み電池が回収され、1 tの電池がノボシビルスク州のリサイクル工場に運搬された。
- (3) 廃棄物の削減のため、消費後に適正処分の対象となる完成品リストが、2015年9月24日にロシア政府によって承認された。
- (4) ハバロフスク地方政府は、2016年から2018年にかけて韓国科学技術院（KAIST）と共同プロジェクトを実施し、「ロシア連邦ハバロフスク地方における固形廃棄物処理マスタープラン」を策定した。
- (5) 2022年に、環境への影響が大きくて最も危険な対象物質を除去するための対策が計画されている。その中で、旧コムソモリスク硫酸工場のホウ素含有石膏スラッジのタンクの処理及びアムールスク市内の埋立地の再生が計画されている。
- (6) 2019年に、川、海、湖などの沿岸の25kmに渡り、1,400人のボランティアが清掃活動を実施した。
- (7) 2018年から、ボランティア団体によって、ごみ分別収集を目的とした公共プロジェクト「エコガレージ」が実施されている。
- (8) ハバロフスク地方では固形廃棄物で作られる作品コンテストが毎年実施され、500人以上の生徒、大学生、教員、保護者が参加している。
- (9) ハバロフスク地方天然資源省の職員は独自開発されたシナリオを活用し、保育園や学校で環境に関する授業を行っている。
- (10) 10月16日州立教育センターでは、州知事と高校生・教員の参加形式による環境教育の授業が行われた。  
授業では、健康的で安全な未来を確保するために若い世代の役割、水域沿岸の清掃活動への参加やごみ分別回収の可能性について検討された。